

平成26年度第3回北海道地方独立行政法人評価委員会
試験研究部会 議事録

- 開催日 平成26年8月19日(火) 14:00～16:20
○場所 北海道庁本庁舎2階 共用会議室
○出席者 (委員) 石橋部会長、安達委員、北野委員、細川委員、籾本委員
(事務局) 総合政策部科学IT振興局研究法人室 田中室長、寺前参事、樋口主幹ほか
- 議事 (1) 平成25年度 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の業務実績に関する評価結果(案)について
(2) 平成25年度 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の財務諸表及び利益処分案について
(3) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第二期中期目標(素案の修正)について
(4) その他
- 資料 資料1 平成25年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構の業務実績に関する評価結果(案)
資料2-1 平成25年度財務諸表の概要(案)
資料2-2 平成25年度利益処分に係る知事の承認(経営努力認定)の概要(案)
資料3 地方独立行政法人北海道立総合研究機構中期目標(素案の修正)
- 参考資料1 北海道地方独立行政法人評価基本方針
参考資料2 地方独立行政法人北海道立総合研究機構年度評価実施要領

(事務局 寺前参事)

○開会

(石橋部会長)

●挨拶

それでは、部会に先立ち一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれては、お忙しいところ、今年度第3回の試験研究部会にお集まりいただき感謝申し上げます。

本日は、平成25年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構の業務実績に関する評価結果案と、財務諸表及び利益処分案、それに加えて来年度からスタートする第二期中期目標素案の修正案について審議をいただく予定となっている。

本日は限られた時間ではあるが、客観的かつ中立公正な立場から、活発なご議論をいただき、審議を進めて参りたいと考えているので、皆さまのご協力をお願いし、私の挨拶とさせていただきます。

(事務局 寺前参事)

○ それでは、これから先の議事の進行については、石橋部会長にお願いする。

議事(1)平成25年度 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の業務実績に関する評価結果(案)について

(石橋部会長)

● 本日の審議は、お手元の次第にある3つの議題について事務局から説明を受け、皆さまからご意見をいただきながら、審議を進める。なお、年度評価結果案及び財務諸表と利益処分案は、本日の審議結果を最終結果とさせていただきます。

第一の議事である「平成25年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構の業務実績に関する評

価結果（案）」の審議を行う。

評価結果案は、7月に実施した法人ヒアリング、審議を経て部会として決定した各項目の評価を踏まえ、委員意見を反映しながら、事務局で評価結果案として取りまとめたもの。

はじめに、案について、事務局から説明願う。

（事務局 工藤主査）

○資料1に基づき説明

- ・ 年度評価結果の全体構成としては、基本的に札幌医大に準拠したものであるが、一部記載方法等を変更している。

以下、変更点として、表紙をめくって「口評価にあたっての基本的な考え方」の次に、道総研の概要を新規に記載。

B評価の項目は、「2 項目別評価」において、これまで項目を記載していたが、B評価とした理由についてヒアリング結果等を基に新規に記載。

- ・ その他、事前説明内容からの変更点について説明。

（石橋部会長）

- 事務局の説明について、全体を通して評価結果でご意見・質問があれば、願います。
人事の改善について、法人自己評価のA評価を部会審議でB評価とし、13ページの評価における特記事項欄が「Ⅱ やや遅れている」、コメントとしては、「拙速を避け、時間をかけて検討すべきである」となり、若干矛盾する部分もあるが、計画に対して遅れているという考え方で如何か。

（事務局 田中室長）

- 「Ⅱ」は「やや遅れている」ということであり、二期に向けて人事評価が5～10年間で作らなければならない難しい課題であるならば、年度評価で毎年の評価が難しく、これから計画にどう書き込むかにもよるが、慎重に考えないと分かりにくくなることもある。

（籾本委員）

- 「難しい課題であることから、時間をかけて検討すべき」との表現を改めて見ると、質を我々が評価したことになり、法人が実施したことに対するコメントとして少しずれているように感じた。
将来的に研究本部の見直しも出てくる可能性もあることから、将来もある程度見通した上で、設計した方がよいという意味で「大変難しい」と発言したが、言葉足らずであり、そのニュアンスを読み取ることは難しい。
設備に関しては、「ファシリティマネジメント」という言葉や長寿命化やメンテナンスの実施が入っており、それとかなり似ている。長期的な視点を考慮した上での人事評価には感じられない。
「難しい課題であることから」という文言を「次期中期計画期間以降の戦略も加味し」という文言としてはどうか。

（石橋部会長）

- 他の委員は如何か。

（安達委員）

- 「次期中期計画の戦略に沿って」と明確に言ってはどうか。

（籾本委員）

- 「沿って」というと戦略が明示されているイメージがある。

（安達委員）

- 戦略が見えないため、抽象的な表現にならざるを得ない。
「検討」だけではなく、「検証」という言葉が入っているため拘ったが、ある程度明確な数字や戦略の形ができないと検証できないと思う。中期計画の中に明確なものを示していただき、それに沿うことが自然ではないか。

(籓本委員)

- 「次期中期計画期間以降の戦略も加味し」では如何か。

(事務局 田中室長)

- ただ今ご意見のあった「次期中期計画期間以降の戦略も加味し、より方向性を明確に示す必要がある」で如何か。まだ示されていないから遅れているということが自然ではないか。

(事務局 寺前参事)

- 評価制度が戦略と結びつくのか違和感がある。

(事務局 田中室長)

- 効率化係数は、現在の 1,089 人をベースに研究職員、支援職員は5年間維持することを明確に指示する中で、研究本部ごとの位置付けやどの研究を重点化するか考えたものを「戦略も加味し」と見ることもできるのではないか。

(事務局 寺前参事)

- 前回ご意見のあった「難しい課題である」との表現の裏にある意味としては、事務局では、研究職員に適した評価制度が難しい中、成果をアウトカム的に見ると、いろんな分野や年数に違いがある中で表現させていただいた。籓本委員のおっしゃる道総研の運営としてどういう方向に持って行くかの「戦略」とは少し意味合いが違うのではないか。

(籓本委員)

- 戦略を意識した上で、どのアウトカム指標にするかの選択となる。戦略をはっきりさせないとアウトカム指標の選択は間違ってしまう。今まではアウトプット指標だけで構わなかったが、人事評価となると一人ずつの目標を定め、目標をどの数値で図るか納得してもらわなければならない。単なるアウトプットだけでなく、アウトカムでなければならず、その人が法人全体の戦略にどう貢献して欲しいからこのアウトカム指標を選んでいると設定しなければならない。分野ごとだけでなく、年齢やキャリアを加味しなければならず、大変難しい。「次期中期期間以降」ということは、第2期だけでなく第3期も含んで考えて欲しいと考えたもの。表現としては、先ほど提案のあった「次期中期計画期間以降の戦略も加味し、より方向性を明確に示す必要がある」で良いのではないか。

(事務局 田中室長)

- 細川委員のおっしゃるようになりんごの研究に30年かかるが、その研究者をどう評価すると問われた時に、非常に難しい問題であり、真剣に考えては如何かと前回ご審議いただいた。

(事務局 寺前参事)

- 「戦略」という言葉は説明が難しいのではないか。

(石橋部会長)

- 次期中期目標案は出てくるが、中期計画案は早々に出るのか。

(事務局 田中室長)

- 中期目標は10月上旬の議決を得た後に道総研に指示し、道総研は3月末までに中期計画を作成の上、知事に認可申請、3月中に知事が認可し、4月からスタートする流れ。次期中期計画期間「以降の」と入ることがミソであり、次期中期計画にどう織り込むかは計画の中で検討せざるを得ず、次期中期計画で終わるか、もう少し慎重にやるかは3月までに道総研で検討いただければと思う。

(細川委員)

- 私の理解としては、先ほど安達委員がおっしゃったように、「検証」という言葉が計画に入っており、それが十分なされていないことがB評価とした一つの理由と考えている。評価制度自体の中身に全く踏み込んでいないため、どんな評価制度をどんな方向で議論されているか予測で判断してい

る部分があり、どこまで踏み込んで中身を評価するか難しい。評価制度は研究者にとってデリケートな問題で、幅広い分野がある中で法人組織が活性化するか非常に難しい。同じ評価制度では出来ず、研究者に配慮した法人の根本に関わる問題であることから、慎重にやって欲しいということが加味されているのではないかと。表現は今お話をあった方向でまとめていただければ。

(北野委員)

- NO.60 評価制度等の導入は、全体として人事改善を目指したものであり、それが見えないと大目標を失ってしまう。人事評価制度や勤勉手当を導入し、他県の評価制度を調べたことでA評価とすると先ほどの検証の話が出てきてしまう。それが、法人を良い方向に導くことを示していただければと思う。非常に努力されており、難しいテーマであることは委員共通の理解であり、法人を良い方向に引っ張るか、人事の改善につながるか分かるようにして欲しい。

(石橋部会長)

- 文章的には、「戦略」はひっかかるが、室長がおっしゃられた方向でまとめていただきたい。ヒアリング等で聞いても、他府県調査は一昨年からは出ているが、調査の結果、どう進めていくか方向性が出ていない。ワーキングチームから出てきた報告書は、我々から見ると当たり前の文言であり、人事評価としては、もう少し踏み込んだものとして欲しい。

(事務局 田中室長)

- 昔の縦割りの状況であれば評価しやすいが、22 を一緒にして法人としてどう評価するかと問われた時に5年間で答えが出るか分からず、もっと慎重にやらないと研究者の魂が死んでしまう。次期中期計画に書き切れるかを含め、よく検討していただく意味でもB評価とした意味がある。

(籾本委員)

- 「法人の多様性及び強みを考慮し」では如何か。30年もかかる研究もあれば、地道にデータを重ねる部分もあり、サイクルの早いところもある。第一期は一つになることを意識しており、時間の流れは残っており、そこを「多様性」という表現で入れたが。

(事務局 田中室長)

- 法人の「強み」は、研究資源が限られる中でどう選択と集中を図るかであり、「多様性」は元々あった22の機能を1つにしてこれまでは一緒にすることで精一杯であったものが、今後は多様性を見ながら、考えて欲しい。

(籾本委員)

- 「難しい課題であることから」を「重要な課題であることから」としては如何か。

(事務局 田中室長)

- ただ今の意見を読み上げると「・・・一定の検討・整理は行われているが、重要な課題であることから、より方向性を明確に示す必要がある」と如何か。

(石橋部会長)

- 委員の皆さんよろしいか。

～委員了承～

その他、評価結果案についてご意見等あるか。

(籾本委員)

- 10ページのB項目となった項目の「実施課題数や実績額が伸びなかった」という表現はどこをどう見て表現しているのか。22年度からずっと落ちているということか。

(事務局 寺前参事)

○ 24年度と25年度を比較すると受託研究の課題数だけが減少しており、他は若干増えている状況であることから、伸びなかったと表現したもの。

(籾本委員)

● 24年度と25年度の比較の表であればよいが、22年度からデータが入っており、3年間何をしていたのかと見える数値である。

(事務局 田中室長)

○ 事務局としては、5か年計画である以上全てのデータを示すこととして表を入れた。

(細川委員)

● 22年度と比べて「不十分だった」ではどうか。

(石橋部会長)

● 「・・・実施課題数や実績額が不十分であった」ということで修正させていただく。その他、ご意見等あるか。

～意見・質疑等なし～

人事の改善と一般共同研究、受託研究の2カ所の文言を修正いただき、部会の評価結果とする。

議事(2) 平成25年度 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の財務諸表及び利益処分案について

(石橋部会長)

● 次に、議題2「平成25年度 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の財務諸表及び利益処分案について」事務局から説明願う。

(事務局 川原主任)

○ 資料2-1、2-2に基づき説明

(石橋部会長)

● ただ今の説明について、ご質問があれば、ご発言をお願いします。

～委員意見等なし～

(石橋部会長)

● それでは、「財務諸表及び利益処分の承認にかかる意見」について、試験研究部会として「特段なし」ということでよいか。

～委員同意～

(石橋部会長)

● それでは、そのように決定する。

議事(3) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第二期中期目標(素案の修正)について

(石橋部会長)

● 次に、議題3「地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第二期中期目標(素案の修正)につい

て」事務局から説明願う。

(事務局 伊藤主査)

○ 資料 3 に基づき説明

(事務局 田中室長)

○ 資料のなお書き部分について、平成 26 年度比 5 % の削減だと約 7 億円となる。現在は、人件費の乖離が年 7 億円あり、剰余金が約 4 億円、その差額の約 3 億円は他の経費に充てているが、仮に予算を年 1.4 億円抑えても、法人運営に影響はないと考えている。

(石橋部会長)

● ただ今の説明について、委員の皆さんからご質問があれば、ご発言をお願いします。

(細川委員)

● 同じ内容を 2 回書いているように見えるが、最初の「運営費交付金を充当して行う業務に係る…」の部分と、「なお」以下の部分は、どういう関係か。

(事務局 伊藤主査)

○ 中期目標は道から道総研への指示。前段は道総研に対し効率化を図り、経費削減を指示している。

(細川委員)

● この 2 つは主語が違うのか。

(事務局 伊藤主査)

○ その通り。前段の部分は道総研が行うことで、なお書きの部分は道が行うこと。

(石橋部会長)

● 運営費交付金充当経費の一部を 1 % 削減することとなるが、交付金全体ではどうなるのか。

(事務局 伊藤主査)

○ 道総研では、交付金の算定ルールと 5 年間の総額を中期計画に書くこととなり、今期と次期の比較は可能。

(事務局 田中室長)

○ 今後、法人と予算を検討し、先ほど懸念の意見があった適切な設備更新等ができるようにしたい。

(石橋部会長)

● 次期中期計画に、「研究関連経費を除く運営費交付金充当経費を 1 % 削減する」という文言が入れば、分かりやすい。

(細川委員)

● 研究費、研究職・研究支援職の人件費は効率化係数の対象としないとのことだが、札幌医大も同様か。

(事務局 伊藤主査)

○ 札幌医大は中期目標に交付金を年 1 % 削減すると明記し、中期計画に削減対象とする項目を記載している。効率化係数の対象とする項目は道総研と同様である。

(細川委員)

● 研究職等を効率化係数の対象としないことで、具体的にどういう変化があるのか。

(事務局 田中室長)

- 研究職員はこれまで 50 人以上減少しているが、研究職員や船員等の研究支援職員は、今後 5 年間は維持することを道総研に指示する。これまでの削減で現場のモチベーションに影響しているので、今後 5 年間は安定的に研究が続けられるようにしたい。

(細川委員)

- 具体的な戦略として、中期目標に記載されるのは「北海道科学技術振興戦略」のみだが、これは道総研に係る全分野を網羅した戦略なのか。

(事務局 寺前参事)

- 中期目標別紙の冒頭に「道の総合計画をはじめ、北海道科学技術振興戦略、各研究分野に関連する条例等の趣旨を踏まえ」と記載しており、各分野については、それぞれの条例・計画を踏まえて進めることとなる。

(細川委員)

- 第 2 期の 5 年間は研究経費を確保することになったが、更に頑張らないと、次の第 3 期でどうなるかは分からないということか。

(事務局 寺前参事)

- そうするため、第 2 期は成果をきちんと道民の皆様に示していく必要がある。

(事務局 田中室長)

- 道総研の成果に係る経済的な波及効果について、道議会総合政策委員会において、特許等を利用した商品の売上額は約 55 億円、登録品種を利用した種苗販売額は約 36 億円との答弁をした。今回初めて算出したが、130 億円を超える税金を投入している以上、我々としても研究成果を定量的に示す必要があると判断した。

(細川委員)

- 前回の部会で研究成果のプレゼン内容には感心したが、その結果の数字が見えなかった。数字を出すことにより道民の理解が広がる。北海道は食や観光など、戦略的な産業分野を提起しているが、それを支えているのは道総研の地道な研究であることを、もっと PR すべき。

(石橋部会長)

- 従来は、研究経費を含めた運営費交付金を毎年 1%削減していたが、次期は研究経費を除くことが大きな違いであり、根底となる研究職員を今まで削減したが、今後はフラットにして研究に励んでもらうということによいか。
それでは、皆さんからのご意見等を 28 日開催の評価委員会で私から発言させていただくということによいか。

～委員同意～

(石橋部会長)

- それでは、そうさせていただきます。

議事(4) その他

(石橋部会長)

- 最後に、「議事(4) その他」について、事務局から説明願う。

(事務局 工藤主査)

- 平成26年度の試験研究部会の現地視察案について説明、本日視察先を決定いただきたい。
各研究本部については、全て昨年度で視察済み。
今年度については、これまで視察していない研究機関として、函館水産試験場及び道南農業試験場を1泊2日で視察する案と、函館水産試験場を日帰りで視察する案を提案。
視察内容については、例年どおり提案。ご意見等あればいただきたい。

(石橋部会長)

- 今年度の視察先の希望があればご発言をお願いします。無ければ、事務局案で検討を進めさせていただきます。

～ 意見等なし ～

委員の皆さんで2日間は難しいという意見であれば、日帰りとなるが、如何か。

(安達委員)

- 日程を調整していただければ1泊2日をお願いします。

(細川委員、北野委員、旗本委員)

- 日程次第である。

(石橋部会長)

- 1泊2日で函館水試と道南農試を視察する案で調整いただく。
- これで、本日の議事は終了したが、他にご発言等はないか。

～委員発言等なし～

(石橋部会長)

- では、本日の部会をこれで終了する。

(事務局：田中室長)

- 石橋部会長をはじめ委員の皆様、本日は長い間ご審議いただき感謝。
効率性は必要だが、安定的な運営をさせてあげたいということで、5年間で120人減少した道総研をこれ以上削減せず、頑張ってもらいたいという気持ちでやっており、委員の皆さまからも道総研を良くするための建設的なご意見を数多くいただいております、事務局として嬉しく思っている。
中期目標は3定で議決いただき、立派な中期計画ができるよう道総研に指示するので、今後ともご指導、ご鞭撻をお願いします。
本日はありがとうございました。